WHO news May 2022

2022年5月2日

UNICEF and WHO warn of perfect storm of conditions for measles outbreaks, affecting children

Reported worldwide measles cases increased by 79% in the first 2 months of 2022, compared to the same period in 2021, as WHO and UNICEF warn conditions ripe for serious outbreaks of vaccine-preventable illnesses

An increase in measles cases in January and February 2022 is a worrying sign of a heightened risk for the spread of vaccine-preventable diseases and could trigger larger outbreaks, particularly of measles affecting millions of children in 2022, warn WHO and UNICEF.

Pandemic-related disruptions, increasing inequalities in access to vaccines, and the diversion of resources from routine immunization are leaving too many children without protection against measles and other vaccine-preventable diseases.

ユニセフと WHO、麻疹の流行に「破滅的な事態」の条件が揃い、子どもたちに悪影響が及ぶと警告

2022年の最初の 2 カ月間に報告された世界の麻疹 (はしか) 患者数は、2021年の同時期に比べ 79 % 増加し、WHO とユニセフはワクチンで予防可能な疾病の深刻な流行が起こる状況に陥ったと 警告しています。

麻疹は非常に感染力が強いため、ワクチン接種レベルが低下すると、患者がすぐに顕在化する傾向があります。 ほとんどの症例は、COVID-19、紛争、その他の危機により社会的 ・ 経済的困難に直面し、慢性的に医療システムのインフラが弱く、不安を抱えている環境で発生しています。

2022 年 4月 1日現在、パンデミック以降に予定されていた 43 カ国の 57 に及ぶ「ワクチンで予防可能な疾病のキャンペーン」が依然として延期されており、2 億 300 万人 (そのほとんどが子ども) に影響を与えています。 このうち 19 件は「麻疹キャンペーン」であり、ワクチンを受けられなかったために 7300 万人の子どもが麻疹の危険にさらされています。

ユニセフと WHO は、Gavi ワクチンアライアンスなどのパートナーとともに、ワクチン接種システム強化のための取り組みを支援しています。

2022年5月2日

The Healthy Ageing 50: A call for leaders transforming the world to be a better place in which to grow older

We have gained an extra 20 years of life. It is time to honour those who are working to make the extra years healthy.

A new United Nations (UN) Decade of Healthy Ageing initiative has been announced seeking to

name and honour 50 leaders who are working to transform the world to be a better place in which to grow older. Nominations are now open for the <u>Healthy Ageing 50</u>: an initiative supported by the World Health Organization (WHO), the UN Department of Economic and Social Affairs (UNDESA), and the World Economic Forum (the Forum).

The Healthy Ageing 50: 高齢者の健康や暮らしを支援する世界のリーダー 50 人を募集開始

国連が新たに「Healthy Aging (健康的な高齢化) の 10 年」イニシアティブを発表し、高齢者にとってより良い世界にするために活動している 50 名のリーダーを選出し、その栄誉を称えることになりました。

WHO、国連経済社会局 (UNDESA)、世界経済フォーラム (The Forum) が支援するこのイニシアティブでは、現在、「ヘルシー・エイジング 50 」の推薦が開始されています。

世界的に人口の高齢化(長寿化)が進んでいます。 50 年前と比較すると、平均で 20 歳も寿命が延びました。 しかし、この 20 年の好機(チャンス)は「健康的な加齢」に大きく左右されます。 単に病気がないだけでなく、歳をとっても私たちが大切にしていることを実現できるような環境、機会、政策が創出されることが必要です。

ヘルシーエイジング 50 は、行政、組織、大学、企業、地域社会など、それぞれの分野でヘルシーエイジングの推進に貢献したすべてのリーダーを対象としています。 自薦 ・ 他薦を問わず、「健康な高齢化の 10 年」の活動分野のいずれかにノミネートすることが可能です。

推薦・応募の期限は2022年6月15日まで。

2022年5月2日

World Immunization Week 2022: Spotlight on vaccination to reduce the global cancer burden

To mark World Immunization Week 2022, the International Agency for Research on Cancer (IARC) is highlighting the critical role that vaccination can play in preventing a substantial portion of the future global burden of cancer.

Infection with hepatitis B virus (HBV) and human papillomavirus (HPV) together caused an estimated 1 million new cases of cancer in 2018, more than 5% of all cancer cases diagnosed that year. HBV infection was responsible for 360 000 new cases and HPV infection for 690 000 new cases, even though infection with HBV and the most carcinogenic HPV types can be prevented through vaccination.

がんの負担を減らすための予防接種の重要な役割 (IARC)

国際がん研究機関 (IARC) は、将来の世界的ながんの負担を予防するために、ワクチン接種が果たすことのできる重要な役割を強調しています。

B型肝炎ウイルス (HBV) とヒトパピローマウイルス (HPV) への感染は、2018年に推定 100 万件の新規がん症例を引き起こし、その年に診断された全がん症例の 5 % 以上を占めました。 HBV は、慢性感染者の約 25 % が肝硬変や肝がんになると言われています。HPV 感染は、子宮頸がんや

肛門がんのほぼすべての新規症例、および頭頸部がん(鎖骨から上で脳と眼球、顔面皮膚を除く部位のがん。 病名としては、口腔がん(舌がん)、喉頭がん、咽頭がん、甲状腺がんなどが含まれる)の多くの割合の原因となっています。

IARC は、2040 年までに新たに年間約 80 万件の子宮頸がんが診断されると予測しています。 また、年間約 140 万件の肝臓がんが新たに診断されると推定しています。

しっかりとしたワクチ接種や予防のプログラムがあれば、この数を大幅に減らすことができます。 HBV と HPV に対する効率的な予防接種プログラムは、世界的ながんの負担を軽減するために極めて 重要です。

2022年5月2日

WHO reveals shocking extent of exploitative formula milk marketing

The second report in a series detailing exploitative marketing practices employed by US\$ 55 billion baby formula industry, shows parents, particularly mothers, are being insidiously and persistently targeted online

Formula milk companies are paying social media platforms and influencers to gain direct access to pregnant women and mothers at some of the most vulnerable moments in their lives. The global formula milk industry, valued at some US\$ 55 billion, is targeting new mothers with personalized social media content that is often not recognizable as advertising.

A new World Health Organization (WHO) report titled <u>Scope and impact of digital marketing</u> <u>strategies for promoting breast-milk substitutes</u> has outlined the digital marketing techniques designed to influence the decisions new families make on how to feed their babies.

WHO:搾取的粉ミルクマーケティングの衝撃的な実態を明らかに

乳児用調製粉乳業界で採用されている搾取的なマーケティング慣行を詳述したシリーズの 2 番目のレポートは、親、特に母親がオンラインで知らぬ間にそして永続的に標的にされていることを示しています。

粉ミルク会社は、ソーシャルメディアプラットフォームやインフルエンサーから、妊婦や母親が人生 で最も敏感な瞬間に彼らにネットを通じて直接アクセスする機会を購入しています。

世界の粉ミルク産業は約 550 億米ドルと評価されており、多くの場合、広告と認識されないパーソナライズされたソーシャルメディアコンテンツで、新しい母親をターゲットにしています。

粉ミルク会社は、1 日に約 90 回、ソーシャルメディアのアカウントにコンテンツを投稿し、2 億 2900 万人のユーザーにリーチしています。これは、非商用アカウントから母乳育児に関する情報投稿が届く人数の 3 倍にあたります。

このようなマーケティングの浸透により、母乳代替品の購入が増加し、母親を WHO が推奨する母乳育児から遠ざけています。 このような、粉ミルクのデジタルマーケティングの世界的な広がりは、1981年の世界保健総会で採択された「母乳代用品のマーケティングに関する国際規約」に明らかに違反しています。

WHO は、ベビーフード業界に対し、搾取的な粉ミルクのマーケティングをやめるよう求め、各国政府に対し、粉ミルク製品の広告やその他の宣伝をすべて廃止する法律を制定し、監視、執行すること

2022年5月2日

Quadripartite Memorandum of Understanding (MoU) signed for a new era of One Health collaboration

The four international agencies, the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), the World Organisation for Animal Health (OIE), the UN Environment Programme (UNEP) and the World Health Organization (WHO), have signed a groundbreaking agreement to strengthen cooperation to sustainably balance and optimize the health of humans, animals, plants and the environment.

「ワン・ヘルス」新時代に向けて 4 者間協力覚書に調印

国連食糧農業機関 (FAO) 、国際獣疫事務局 (OIE) 、国連環境計画 (UNEP) および WHO の 4 国際機関は「人間 ・動物 ・植物 ・環境の健康を、持続的に均衡化し最適化するために協力を強化」する画期的な協定に調印しました。

これによって国連環境プログラム (UNEP) が旧三者 (FAO、OIE、WHO) に対等のパートナーとして加わり、新たに四者協力による「ワンヘルス組織」を結成することになりました。

新しい覚書 (MoU) は、4 つの組織がより統合的かつ協調的なアプローチを用いて「人間、動物、植物、生態系の境界における課題 (ワンヘルス) 」に取り組むための法的 ・正式な枠組みを提供するものです。 また、この枠組みは、国や地域の保健制度やサービスの強化にも貢献することになります。

2022年5月6日

14.9 million excess deaths associated with the COVID-19 pandemic in 2020 and 2021

New estimates from the World Health Organization (WHO) show that the full death toll associated directly or indirectly with the COVID-19 pandemic (described as "excess mortality") between 1 January 2020 and 31 December 2021 was approximately 14.9 million (range 13.3 million to 16.6 million).

新型コロナの 2 年間の超過死亡者数 1490 万人 (WHO 推計)

WHO の新しい推計によると、2020 年 1月 1日から 2021 年 12月 31日までの 2 年間にわたる、COVID-19 パンデミックが直接または間接的に関連する全死亡 (超過死亡*) は約 1,490 万人 (範囲 1,330 万~ 1,660 万) であることが判明しました。

超過死亡の大部分 (84%) は、東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸に集中しており、超過死亡 1490万人の 81% を中所得国が占め、高所得国と低所得国はそれぞれ 15% と 4% です。

性別では超過死亡は女性よりも男性で多く (男性 57 % 、女性 43 %) 、高齢者でも多いことが確認されました。

これらの推定値の作成は、COVID-19 死亡率評価のための技術諮問グループの作業と各国との協議に 支えられた世界的な協力関係の結果によるものです。

WHO と国連経済社会局 (UN DESA) が共同で招集したこのグループは、世界の第一線の専門家の多くで構成されており、データが不完全であるか入手できない場合でも「比較可能な死亡率推定値」を算出できる革新的な方法論を開発しました。

* 超過死亡は、発生した死亡数と、それ以前のデータに基づきパンデミックがない場合に予想される死亡数との差として計算されます。

2022年5月6日

At your fingertip: New WHO Guide and online Repository of WHO tools for Evidence-informed Decision-making

At WHO, evidence and science have been at the heart of improving health policy and practice. They are a major steppingstone towards achieving the <u>WHO's triple billion targets</u> and the <u>2030 Agenda for Sustainable Development</u>.

With its <u>new Guide</u> on evidence-informed decision-making and the related online repository of tried and tested WHO tools, WHO is now providing users with comprehensive hands-on guidance so that rigorous systematic and transparent methods are applied for the creation and application of research evidence in our day-to-day work — whether developing policy options, formulating new programmes or providing technical assistance to Member States.

エビデンスに基づく意思決定のための新しい WHO ガイドと WHO ツールのオンラインリポジトリー

エビデンスに基づく意思決定 (Evidence-informed Decision-making) に関する新しいガイドと、 関連する WHO ツールのオンライン ・ リポジトリが発表されました。

2022 年 4月 6日、世界各国から 400 人以上が参加したイベントで発表されたこのガイドは、異なる部門やワークストリームからの WHO の共同経験やノウハウを、中央のプラットフォームに集約しています。この出版物の副題は「Evidence, Policy, Impact (証拠、政策、影響)」であり、WHOのグローバルな使命と志しにとって重要なものです。また、本ガイドは、エビデンスに基づく意思決定のための厳密で体系的かつ透明性のある方法を適用する方法についてのガイダンスを提供するだけでなく、機関や国などの階層にかかわらず、エビデンスの発出者とその利用者との間の対話と協力(エビデンス・エコシステム・コミュニティ)を促進することを目的としています。

2022年5月6日

Celebrating hand hygiene success around the world

On <u>World Hand Hygiene Day</u>, WHO celebrates the remarkable work in countries around the world using hand hygiene and infection prevention and control (IPC) to create a culture of quality and safety in healthcare facilities. Below we look at some of the different ways countries are implementing and strengthening IPC in their health care facilities.

Meanwhile, Saraya, a Japanese company which is part of the WHO <u>Private Organizations for Patient Safety (POPS)</u>, is partnering with international organizations and academic institutes to promote local production of alcohol-based handrub in Uganda. In 2010, Saraya started a hand hygiene project in collaboration with UNICEF, which identified poor access to hand hygiene related commodities and led to the establishment of a local company, Saraya Uganda. Currently, Saraya Uganda is working with Kakira Sugar, a local sugar manufacturing company to produce alcohol-based handrub, using ethanol made from sugar cane which is grown on local plantations.

世界各地での手指衛生の成功事例

WHO は世界手指衛生の日 (5月5日) に、医療施設における質と安全の文化を創造するために、世界各国が実施している手指衛生と感染予防・管理 (IPC: infection prevention and control) の目覚ましい活動を賞賛し、IPCを実施、強化している様々な方法を紹介しています。

1) ウガンダ

2010年にユニセフと共同で手指衛生プロジェクトを開始し、地元の農園で栽培されたサトウキビから作られたエタノールを使用し、アルコールベースの手指消毒剤を製造している日本企業である「サラヤ」の活動が紹介されています。

この製品は、ウガンダおよび東アフリカで初めて現地で製造 ・ 販売されたアルコールベースのハンドラブ (擦式アルコール消毒剤) として登録されています。

2) サウジアラビア

2019 年、サウジアラビアは、医療関連感染を減らすための最も重要な介入として、手指衛生を国の最高レベルの法律で認めました。これは、医療従事者に手指衛生の実践を義務付け、すべての医療施設に WHO のツールを使用してコンプライアンスを評価することを義務付け、すべての医療部門に医療施設での手指衛生教育プログラムを立ち上げて強化することを指示することを意味します。

3) その他

ベトナム、チリ、カザフスタン、バングラデシュ、オマーン、ガーナの取組み事例が紹介されています。

2022年5月9日

COVAX Objectives

Since it was launched in 2020, COVAX has pivoted in focus from the discovery of COVID-19 vaccines to supply and delivery.

Developed in light of the ongoing pandemic and the WHO target for countries to vaccinate 70% of their population against COVID-19, COVAX's updated objectives serve the overarching aspiration of enabling equitable, full vaccination of all adult and adolescent populations globally.

Achieving these goals will reduce the impact of the ongoing pandemic, allow economies and

societies to function, and guard against the future evolution of the virus.

COVAX の 2022 年の目標

2020 年に開始された COVAX * は、COVID-19 ワクチンの開発から供給と分配に重点を置いています。

進行中のパンデミック (世界的大流行) を考慮し、国が人口の 70 % にワクチン接種するという WHO の目標に照準を当て、COVAX は世界中のすべての青年 ・ 壮年層の人々に公平で完全な予防接種を可能にすることを目指し、これらの目標を達成することで現在進行中のパンデミックの影響を軽減し経済と社会を機能させ、ウイルスの将来への更なる影響を防ぎます。

COVAX は 2022 年の目標として、推奨ブースターを含む完全なワクチン接種を達成するよう各国を 奨励 ・ 支援すること、低中所得国 AMC-92 の国々に資金と提供の努力を集中することなど 8 つの 目標を掲げています。

* (注) COVAX (COVID-19 Vaccines Global Access) とは、ワクチンを共同購入し途上国などに分配する国際的な枠組み

2022年5月9日

Launch of the Child Health and Wellbeing Dashboard

The dashboard, developed by WHO, UNICEF and CAP 2030, allows policymakers, governments and organizations to easily monitor and compare a selection of indicators on child health and well-being by region, age group and income.

子どもの健康とウエルビーイングのダッシュボードを発表

2020年2月、WHO・ユニセフ・ランセット委員会は、子どもの健康とウエルビーイングに関する報告書を発表し、1989年に採択された国際的な法的枠組みである国連子どもの権利条約 (CRC: The right of the child) に謳われた子どもの基本権への新たな取り組みを呼びかけました。この報告書では、世界、地域、そして各国の政府に開発アジェンダの中心に子どもたちを据え、しっかりとした監視、見直し、行動のサイクルを通じ子どもの権利を実現する責任を負わせることによって、子どもたちのより良い未来を築くための提言も行っています。 このサイクルは、CRCの4つの側面(健康であること、保護されていること、教育を受けること、公平に扱われ意見を聞くこと)における各国の実績を示す説明責任のメカニズムが利用できるかどうかにかかっています。このことから、各国が子どもの健康とウエルビーイングに関する進捗状況を定期的に監視し、優先的に取り組むべき分野や資源配分について、証拠に基づく決定を行うことができるような、使いやすい「ダッシュボード」という新たな説明責任の仕組みが必要となり、WHO、ユニセフ、CAP2030が開発したダッシュボードにより、政策立案者、政府、組織は、子どもの健康とウエルビーイングに関する指標の一部を地域、年齢層、所得別に簡単に監視・比較することができようになりました。

WHO launches first ever global report on infection prevention and control

The COVID-19 pandemic and other recent large disease outbreaks have highlighted the extent to which health care settings can contribute to the spread of infections, harming patients, health workers and visitors, if insufficient attention is paid to infection prevention and control (IPC). But a new report from the World Health Organization (WHO) shows that where good hand hygiene and other cost-effective practices are followed, 70% of those infections can be prevented.

WHO: 感染予防と管理に関する初の世界報告書を発表

現在、急性期病院の患者 100 人のうち、高所得国では 7 人、低 · 中所得国では 15 人が、入院中に少なくとも 1 回の医療関連感染 (HAI: Healthcare-Associated Infection) を発症し、これら HAI 発症患者の平均で 10 人に 1 人がその感染が原因で死亡していると言われています。

新しい WHO の報告書は、世界各国で IPC (infection prevention and control:感染予防管理) のプログラムがどのように実施されているかについて、地域や国に焦点を当て、世界初の状況分析を行ったものです。

報告書によると、適切な手指衛生やその他の費用対効果の高い習慣が守られていれば、これらの感染症の 70%を防ぐことができることが示されています。

WHO は世界中のすべての国に対し「医療の質と患者や医療従事者の安全を確保する」ため、IPC プログラムへの投資を増やすよう呼びかけています。

2022年5月9日

White Paper Consultation: Strengthening the Global Architecture for Health Emergency Preparedness, Response and Resilience

The COVID-19 pandemic has highlighted the need for a stronger and more inclusive health emergency preparedness, response, and resilience (HEPR) architecture. At the 150th meeting of the Executive Board in January, the Director-General committed to develop proposals, in consultation with Member States, on strengthening the architecture for HEPR, and present these to the Seventy-fifth Health Assembly.

Following the Concept note published on March 24th, this draft white paper outlines the Director-General's proposals for strengthening HEPR, ahead of the World Health Assembly. In parallel to a series of consultations, you may provide feedback on the solutions proposed by the Director-General by e-mail to heprconsultation@who.int by May 13th, 2022. We encourage short feedback.

白書案: 健康危機への準備、対応と回復のためのグローバル・アーキテクチャ強化

WHO は「健康危機への準備と対応や回復力ための構造強化」のための新しい白書案を発表しました。

COVID-19 のパンデミックは、より強力で包括的な健康緊急事態への準備 ・ 対応 ・ 回復力 (HEPR: health emergency preparedness, response, and resilience) に関するアーキテクチャ の必要性を浮き彫りにしました。 1月の第 150 回理事会において、事務局長は、加盟国との協議のもと、HEPR のためのアーキテクチャの強化に関する提案を作成し、第 75 回保健総会に提示する

ことを約束しました。

この白書案は、世界保健総会に先立ち「HEPR 強化のための新しい委員会の設立や国際保健規則 (IHR) の改正等の概要」を示すものであり、 5月13日までにこの案に対する意見を求めています。

2022年5月11日

Meeting report of the Working Group on Sustainable Financing

· · · · (e) that the Seventy-fifth World Health Assembly, recognizing the important role of assessed contributions in sustainably financing the Organization, requests the Secretariat to develop budget proposals, through the regular budget cycle, for an increase of assessed contributions to contribute to financial sustainability of WHO and with its aspiration to reach a level of 50% of the 2022–2023 base budget1 by the biennium 2030–2031, while aiming to achieve this by the biennium 2028–2029:

加盟国の分担金を予算の 50%に引上げに合意 (持続可能な資金調達に関するワーキンググループ)

現在、WHO の年間予算 30 億ドルのうち加盟国からの拠出は約 16 % 、残りを任意拠出金が占めており、WHO の活動に支障をきたしていました。

WHO の主要加盟国で構成される「持続可能な資金調達に関するワーキンググループ」は、加盟国からの分担金を段階的に増やし、2028 年から 2029 年にかけて分担金を予算の 50 % にすることに合意しました。

また、WHO の予算 ・ プログラム ・ 資金調達のガバナンス強化に関する機動的な加盟国タスクグループを設立し、透明性、効率性、説明責任、コンプライアンスに関するガバナンスにおける課題を分析し、提言をまとめ、2023 年 1 月の第 152 回理事会とプログラム ・ 予算 ・ 運営委員会の第 37 回会議を通じて、2023 年の第 76 回世界保健総会に報告し、長期的改善を勧告することを提言しました。

2022年5月11日

WHO highlights glaring gaps in regulation of alcohol marketing across borders

A new report from the World Health Organization highlights the increasing use of sophisticated online marketing techniques for alcohol and the need for more effective regulation. It shows that young people and heavy drinkers are increasingly targeted by alcohol advertising, often to the detriment of their health.

WHO: 国境を越えたアルコール ・マーケティング規制の重大なギャップを指摘

飲酒は、アルコール依存症を含む精神 ・ 行動障害、肝硬変、一部のがん、心血管疾患などの主要な

非感染性疾患、暴力や交通事故による負傷 · 死亡など、健康問題の多くと因果関係があります。 世界では、毎年 300 万人 (10 秒に 1 人) がアルコールの有害な使用により死亡しており、これ は全死亡の約 5 % に相当します。 また、アルコールに関連した死亡は若年層に偏っており、20 -39 歳の死亡のうち 13.5 % がアルコールに関連したものです。

WHO の新しい報告書は、若者や大量飲酒者がアルコール広告のターゲットにされつつあり、しばしば健康に害を及ぼしていることを明らかにし、アルコールに関する高度なオンライン・マーケティング手法の利用が増加していることに対して、各国政府が国境を越えた側面を含め、アルコール・マーケティングの包括的な制限または禁止を公衆衛生戦略に組み込む必要があると結論づけています。

2022年5月16日

WORLD HEALTH SUMMIT 2022

The World Health Summit strengthens exchange, stimulates innovative solutions to health challenges, fosters global health as a key political issue and promotes the global health debate in the spirit of the UN Sustainable Development Goals: SDG 17 "Partnership for the Goals".

世界保健サミット 2022 を 10 月に開催

2022 年の世界保健サミットが、10 月 16 日から 18 日までベルリンで開催されることになりました。

このサミットは、世界の健康課題に対する革新的なアプローチを刺激し、重要な政治課題としてのグローバルヘルスの立場を再確認し、すべての人々の健康と福祉を育み、国際的な情報交換を強化することを目的としています。

議論されるトピックは以下の通りです。

- ・健康とウエルビーイングのための投資
- 気候変動と地球の健康
- ・パンデミック対策のための枠組み
- ・健康のためのデジタルトランスフォーメーション
- ・フードシステムと健康
- ・医療システムの強靭性と公平性
- ・平和のためのグローバルヘルス

(注) デジタルトランスフォーメーション: 進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること

2022年5月16日

WHO announces winners at the Awards ceremony of the 3rd Health for All Film Festival (HAFF)

More than 1000 film makers from over 110 countries have submitted short films for the 3rd edition of the WHO Health for All Film Festival (HAFF), on themes ranging from the trauma of war to living with COVID-19, through women's health and so much more. Seventy short films have been chosen for the shortlist reviewed by a jury of international actors, development leaders and senior WHO experts. WHO's Director-General approved the advice from this jury and announced the winners today.

Health for ALL 映画祭 : 受賞作品発表

第 3 回 WHO Health for All Film Festival (HAFF) には、110 カ国以上から 1,000 人以上の映画制作者が、戦争のトラウマから COVID-19 との共存、女性の健康など、様々なテーマのショートフィルムの応募がありました。

最終選考に残った 70 作品は、6 つのプレイリストとしてオンラインで視聴することができます。 この公式セレクションの中から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、健康上の緊急事態および、 よい健康とウエルビーイングの 3 つの主要なコンペティション部門ごとに「グランプリ」が選出さ れます。

- 3 部門のグランプリ受賞作品は以下の通りです。
- 1) UHC グランプリ

母体の健康 / ドキュメンタリー / 上映時間 7分53秒 / 監督: インドネシア出生前診断研究所

2) 健康危機管理グランプリ

COVID-19 重症例/アニメーション / 上映時間 7分 26 秒 / 監督: Oliver John Pratt (イギリス)

3) ベター・ヘルス&ウェルビーイング グランプリ

女性器切除 / 証言に基づく創作 / 上映時間 4分35秒 / 監督 : ニルマラ・チュードハリー、ルーパリ ・ ラメシュ ・ クマール (インド)

また、特別賞として、学生部門、リハビリテーション、健康イノベーション、短編部門の受賞作品も発表されました。

2022年5月16日

WHO and MPP announce agreement with NIH for COVID-19 health technologies

WHO's COVID-19 Technology Access Pool (C-TAP) and the Medicines Patent Pool (MPP) today finalized a licensing agreement with the United States National Institutes of Health (NIH) for the development of several innovative therapeutics, early-stage vaccines and diagnostic tools for COVID-19.

WHO と MPP、COVID-19 の健康技術に関して NIH と合意

WHO、COVID-19 技術アクセスプール (C-TAP) と医薬品特許プール (MPP) は、米国国立衛生研究所 (NIH) との間で、COVID-19 に関する複数の革新的な治療薬、初期段階のワクチン、診断ツールの開発に関するライセンス契約を締結しました。

このライセンスは透明性が高く、グローバルで非独占的なものです。 世界中のメーカーが MPP およ

び C-TAP と協力し、これらの技術を低・中所得国に住む人々に提供することで、パンデミックの終息に貢献することができるようになります。

2 つのライセンスの下で提供される 11 の COVID-19 技術には、現在利用可能な COVID-19 ワクチンで使用されている安定化スパイクタンパク質、ワクチン、治療薬、診断薬開発のための研究ツール、初期段階のワクチン候補や診断薬が含まれています。

C-TAP の支援の下、NIH の技術を MPP にライセンスすることで、これらの技術へのアクセスが拡大し、現在および将来の公衆衛生上のニーズに対応できる商業製品の開発につながることが期待されます。

C-TAP は、2020 年に WHO 事務局長とコスタリカ大統領によって開始され、43 の加盟国によって支持されています。 この技術アクセスプールによるオープンで透明性の高い非独占的なライセンス 契約を通じて、医薬品など生産と供給を後押しし、COVID-19 健康製品へのタイムリーかつ公平で安 価なアクセスを促進することを目的としています。

MPP (医薬品特許プール) は多くのライセンスを保有し、このイニシアチブにライセンスに関連する 専門知識を提供しています。

2022年5月16日

TB laboratory manuals issued to support the implementation of WHO-recommended diagnostics

Three new manuals were released today to support the implementation of WHO-recommended rapid molecular diagnostic tests for the detection of TB and drug-resistant TB, the processing of stool samples for the diagnosis of childhood TB and the interpretation and reporting of line probe assays (LPAs) for detection of drug-resistant TB. These manuals were developed by WHO and the Stop TB Partnership's Global Laboratory Initiative (GLI) working group.

WHO が推奨する診断法の実施を支援する結核検査マニュアル発行

WHO が推奨する結核および薬剤耐性結核検出のための以下の 3 つの新しいマニュアルが WHO とストップ結核パートナーシップの Global Laboratory Initiative (GLI: 世界検査室主導機構) ワーキンググループにより作成され、本日発表されました。

- 1. 結核および薬剤耐性結核の検出のための WHO 推奨分子迅速診断検査法の選択のためのマニュアル
- 2. 小児結核診断のための便検体処理マニュアル
- 3. 薬剤耐性結核菌検出のためのラインプローブアッセイ:検査室スタッフと臨床医のための詳説と結果報告マニュアル

2022年5月16日

WHO launches new Nursing and Midwifery Community of Practice for International Nurses Day

On International Nurses Day, 12th May, we celebrate Nurses from all over the world and the important work that they do to save lives and to keep their communities safe.

Today the WHO Chief Nursing Office is officially launching a Nursing and Midwifery Global Community of Practice https://nursingandmidwiferyglobal.org - a network for nurses, midwives and stakeholders to connect, communicate and collaborate.

WHO: 「看護の日」に向けて新しい看護 ・ 助産コミュニティ ・ オブ ・ プラクティスを立ち上げ

5月12日は「看護の日」です。

「看護の日」には、世界中の看護師が人々の命を救い、コミュニティの安全を守るために重要な役割を果たしていることを讃えます。

この日にちなみ、WHO 主任看護官は看護師、助産師、関係者がつながり、コミュニケーションを図り、協力するためのネットワークである Nursing and Midwifery Global Community of Practice を正式に発足させました。

これは、看護師、助産師、関係者がつながり、コミュニケーションをとり、協力するためのネットワークです。

2022年5月17日

WHO launches new Mortality Database visualization portal

A new World Health Organization (WHO) <u>Mortality Database visualization portal</u> has been released, reflecting key updates to modernize the user interface that give unparalleled insight, accessibility and relevance to seven decades of mortality data for policymakers and the public.

WHO 死亡率データベースの新しい可視化ポータル始動

世界保健機関 (WHO) 死亡率データベースの新しい可視化ポータルがリリースされました。 このポータルサイトは政策立案者と一般市民に、比類のない知見である 70 年間の死亡率データへのアクセスや (他の情報との) 関連性を提供する、最新のユーザーインターフェースを備えています。 世界の死亡率と死因の統計は 1 世紀以上にわたり、疾病が人々の健康に及ぼす影響を追跡し、命を救うための保健プログラムや介入の効率性を測定するために不可欠なものでした。

COVID-19 による超過死亡率の推定値は、何人がどのような原因で死亡しているかを正確に把握することがいかに重要であるかを知らしめるものです。

WHO は 1948 年の設立以来、すべての加盟国に対して死亡率データの報告を求め、その情報をWHO Mortality Database に集めてきました。 このポータルサイトには、120 の国 ・ 地域の死亡 データを年別、性別、年齢別に収録しています。 また、インタラクティブな視覚化機能により、死亡者数、10 万人当たりの死亡率、総死亡者数に対する割合を表示することができます。

また、格差や傾向を明確に示すことで、時間の経過とともに各国にどのような不都合を生じているかを把握することも可能です。 これは、国内および国家間の健康上の格差を是正するための政策を導くための強力な情報となります。 現在、このポータルサイトには世界の全死因の 36 % に相当するデータが登録されており、アメリカやヨーロッパ地域では 90 % 、アフリカや東南アジア地域では

10% 以下という幅があり、この格差は大きな問題を含んでいます。

正確でタイムリーな死因情報を作成 · 提供する重要な鍵として、住民登録 (人口静態統計) と生命統計 (人口動態統計) システムの改善を支援するグローバルな取り組みが進められています。

2022年5月17日

Almost one billion children and adults with disabilities and older persons in need of assistive technology denied access, according to new report

A new report published today by WHO and UNICEF reveals that more than 2.5 billion people need one or more assistive products, such as wheelchairs, hearing aids, or apps that support communication and cognition. Yet nearly one billion of them are denied access, particularly in low- and middle-income countries, where access can be as low as 3% of the need for these life-changing products.

<u>The Global Report on Assistive Technology</u> presents evidence for the first time on the global need for and access to assistive products and provides a series of recommendations to expand availability and access, raise awareness of the need, and implement inclusion policies to improve the lives of millions of people.

10 億人近い「障がいのある子どもや大人、高齢者」が、必要な支援技術に アクセスできず

WHO とユニセフが発表した新しい報告書によると、25 億人以上が車椅子、補聴器、コミュニケーションや認知をサポートするアプリなど、1 つ以上の支援製品を必要としていることが明らかになりました。

しかし、そのうち 10 億人近くがこれらの支援製品にアクセスできず、特に低 · 中所得国では、障がいをかかえる人々の人生を変えられる製品の、ニーズに対するアクセスが必要の 3 % 程度にとどまっているようです。

報告書では、人口の高齢化や世界的な非感染性疾患の増加により、2050年までに 1 つ以上の支援製品を必要とする人数は 35 億人に増加する可能性があると指摘しています。 また、本報告書では、低所得国と高所得国の間にあるアクセスにおける大きなギャップを問題視しています。 WHO とユニセフは、政府、産業界、ドナー、市民社会に対し、支援製品へのアクセスに資金を提供し、優先順位をつけるよう呼びかけています。

2022年5月17日

FOR A SAFER, HEALTHIER AND FAIRER WORLD RESULTS REPORT Programme budget 2020–2021

This year's Results Report, for the 2020-21 biennium, highlights how WHO staff around the world have worked tirelessly to support countries to respond to the COVID-19 pandemic, as well

as responding to dozens of other emergencies around the world, including the war in Ukraine.

より安全で、より健康的で、より公平な世界のために (成果報告書) 2020 - 2021 年

COVID-19 のパンデミックは、世界中の保健システム、経済、社会に深刻な混乱をもたらし、第 13 次一般作業計画 (GPW 13) の「トリプル 10 億」目標や SDG s (持続可能な開発目標) 保健目標に向けて各国の前進を支援する WHO の活動の多くにも支障をきたしています。 全世界で 2030 年までに SDGs の保健目標を達成するために必要なペースの 4 分の 1 程度しか進んでいません。 2020 - 21 年の 2 年間を対象とした今年の成果報告書では、COVID-19 パンデミックへの対応に加え、ウクライナ戦争をはじめとする世界各地の数十の緊急事態に対応するため、世界中の WHO スタッフがいかに精力的に活動してきたかと同時に、世界初のマラリアワクチンの広範な使用を推奨するなど、長年の健康上の課題に対する取り組みも続け、ポリオ撲滅にこれまで以上に近づいていることが紹介されています。

持続可能な資金調達に関する加盟国ワーキンググループが、2028 - 29年の 2 年間までに分担金を WHO のコア予算の 50% に引き上げるよう勧告したことは、加盟国が我々に求める高品質で効率 的なプログラミングと説明責任を実現し、世界が予測不可能な未来に立ち向かうために必要な、 WHO への権限賦与に向けた大きな一歩と言えます。

今後数年間の私たちの優先事項は、最も重要な国々での私たちの活動に、さらに多くの資源が投入されることを確実にすることです。

(備考) プログラム予算 2020 - 2021 の貢献順位 (トップ 10)

- 1. 独、 2. 米、 3. メリンダ・ビルゲイツ財団、 4. 英、
- 5. Gavi、 6. 欧州委員会、 7. 日本、 8. 中国、
- 9. Covid-19 連帯基金、 10. 世界銀行

2022年5月17日

New report shows progress and missed opportunities in the control of NCDs at the national level

A new edition of WHO's NCD Progress Monitor, documenting the actions that WHO Member States are taking to set targets and develop policies and plans to prevent and control major noncommunicable diseases (NCDs) and their risk factors, finds that simple and effective interventions are not being adopted widely enough around the world.

非感染性疾患 (NCD) 進捗モニター新版

WHO の NCD 進捗モニターの新版は、主要な非感染性疾患 (NCD) とその危険因子を予防 ・制御するために、加盟国が目標設定や政策 ・計画の策定に取り組んでいる行動の記録です。 これでは、世界中においてシンプルで効果的な介入策が十分広く採用されていないことが明らかになりました。 2022 年の NCD 進捗モニターによると、194 カ国のうち 126 カ国が WHO のガイダンスに基づき、NCD に関する期限付きの国家目標を設定していることが示され、2022 年には 2020 年に発表さ

れた前回の NCD 進捗モニターと比較して、77 カ国がより多くの指標を完全に達成しました。 進展が見られた分野は、NCD 世界行動計画の下で効果的にタバコの使用を減らすための取り組み で、現在、全体の半数以上の国が、ベストバイ介入の一つである「タバコ包装のプレーン・スタン ダード化 and / or 大きなグラフィック健康警告の実施」を完全に達成しました。

また、NCD 管理のための臨床ガイドラインの整備にも改善が見られ、大半の国が初めてこの指標を完全に達成しました。栄養や食環境を改善するための取り組みも進展しています。

今回の調査結果は、NCD は世界最大の死亡要因であり、各国がこのシンプルで効果的かつ費用対効果の高いベストバイの介入策を採用することが急務であることを再確認しています

2022年5月19日

World No Tobacco Day 2022

The harmful impact of the tobacco industry on the environment is vast and growing adding unnecessary pressure to our planet's already scarce resources and fragile ecosystems.

Tobacco kills over 8 million people every year and destroys our environment, further harming human health, through the cultivation, production, distribution, consumption, and post-consumer waste..

世界禁煙デー2022

タバコ産業が環境に与える有害な影響は膨大であり、既に不足している地球の資源と脆弱な生態系に 不必要な圧力を加えながら拡大しています。

タバコは、栽培、生産、流通、消費、消費後の廃棄物を通じて環境を以下のように破壊しています。

- 6 億本 ; タバコを作るために切り倒された木々の数
- 8400 万トン; CO2 排出量
- 220 億リットル ; タバコの製造に使用される水の量

また、多くの人々の命を奪うなど健康にも害を与えています。 WHO は世界禁煙デーに際して、次の 4 つのメッセージを発信しています。

1) タバコは環境に有害です

タバコの栽培、製造、使用は、化学物質、有毒廃棄物、マイクロプラスチックを含む吸殻、電子タバコの廃棄物によって私たちの水、土壌、浜辺、街路は汚染されています。

2) タバコ産業に後始末をさせる

タバコ産業は環境を破壊することで利益を得ています。タバコ産業に環境破壊の責任を取らせ、廃棄物や損害賠償をさせてこれらの廃棄物の回収費用を回収することも必要です。

3)地球を守るためにタバコをやめよう

あなたの健康と地球の健康のために、タバコをやめましょう。タバコの煙は大気汚染の原因となります。 また、3 種類の温室効果ガスも含まれています。

4) タバコ農家が持続可能な作物へ転換するのを支援する

政府と政策立案者は、タバコ農家がタバコ葉の栽培、乾燥、および製品化による環境への影響を軽減するため、より持続可能な代替生計手段への転換を支援するとともに、タバコ規制措置を継続する必要があります。

2022年5月19日

Seventy-fifth World Health Assembly to focus on "Health for Peace," Peace for Health" for recovery and renewal

In a world threatened by conflict, inequities, the climate crisis and pandemics, the Seventy-fifth session of the World Health Assembly will stress the importance of building a healthy and peaceful planet by harnessing science, data, technology and innovation.

This year's session of the Health Assembly will focus on the theme of "Health for Peace, Peace for Health" and will run from the 22-28 May at the Palais des Nations in Geneva.

第 75 回世界保健総会、「平和のための健康、健康のための平和」をテーマ に開催

今年の保健総会は、「平和のための健康、健康のための平和」をテーマに、5月22日から28日まで、ジュネーブで開催される予定です。 この総会では、次期WHO事務局長の任命も行われる予定で、5月22日のハイレベルセグメントで、選出された保健総会議長、各国首脳、特別ゲストによるスピーチ、WHO事務局長によるスピーチ、事務局長健康賞の授与で幕を開ける予定です。

総会では、食品安全、口腔衛生、結核の研究とイノベーションに関する世界戦略について検討し、また、WHOの持続可能な資金調達に関するワーキンググループの報告書についても議論される予定です。

その他の主な議題は以下の通りです。

- WHO の健康緊急事態への備えと対応の強化
- 非感染性疾患の予防と制御のための世界行動計画 2023 2030 のための実施ロードマップ
- てんかんとその他の神経疾患に関するセクター間グローバル ・ アクション ・ プラン 20222031
- 性的搾取、虐待、ハラスメントの防止
- ポリオ
- 平和のためのグローバル・ヘルス・イニシアチブ

総会はWHOのウェブサイトからウェブキャストで生中継される予定です。

WHO Procurement Report 2021

This report provides information on WHO's procurement activities in 2021. It covers procurement of goods and services, and also includes COVID-19-related procurement.

The intended audience for the report is WHO staff, Member States, external partners and it is also available for general public consumption.

WHO 調達レポート 2021

WHO は、その重要な公衆衛生の任務を実現するために、年間ベースで相当量の物品とサービスを調達・供給しており、組織の重要な機能となっています。 WHO 調達報告書は、WHO における調達の概要、その年の必須調達データの詳細、主要な取り組みやハイライトを紹介しています。 2020 年は、COVID-19 のパンデミックに関する緊急対応により、調達額は 17 億 1800 万米ドルと大幅に増加しました。 世界的なパンデミックが続く中、2021 年の調達額は若干減少したものの、16.57 億米ドルと高水準で推移しました。

2021 年、WHO は貨物輸送業者とのネットワークを通じて 6,000 以上の国際的な商品移動 (地上、海上、航空)を迅速に行い、要望を集約して、世界の最も遠隔で届きにくい場所にも配送しました。 これは、WHO ドバイ・ ハブを含む WHO が管理する 70 以上の倉庫や保管施設によって補完され、2021 年には WHO の全地域にわたる 100 カ国への約 4800 万米ドルの保健用品の配送をサポートし、前年比 20 % 増の 545 以上の要求を期待通りに実現させました。

2022年5月23日

Incentivizing collaboration towards the health-related Sustainable Development Goals

Ahead of the 75th World Health Assembly, the 13 signatory agencies of the *Global Action Plan for Healthy Lives and Well-being for All* (SDG3 GAP) have released their third progress report, *Stronger collaboration for an equitable and resilient recovery towards the health-related SDGs, incentivizing collaboration.*

健康関連の持続可能な開発目標に向けた協力の促進 (SDG3 GAP)

第 75 回世界保健総会に先立ち、『健康な生活と万人のウエルビーイングのための世界行動計画 (SDG3 GAP: Global Action Plan for Healthy Lives and Well-being for All) 』に関わる 13 署名機関は、「健康関連 SDGs に向けた公平で強靭な回復のための強力な協力」という表題の第 3 回進 捗報告書を発表し、さらなる協力を促しました。

本報告書は、COVID-19 のパンデミックから 2 年以上が経過し、健康関連の SDGs の進捗はさらに予定された計画から外れていることを指摘し、各国の SDGs の実施を加速させるために、連携の改善に焦点を当てた「SDG3 グローバル・アクション・プラン」構築の必要性を強調しています。 また、各機関がより緊密に連携するためのインセンティブを強化するなど、さらなる改善のための方法について概説しています。

イニシアチブはこの 1 年間で協力体制をより強化し、52 カ国 (昨年から 15 カ国増加) が機関の共同支援を受けています。 さらに、各機関の共同作業をより多くの国に拡大するだけでなく、各国の協力を深めて国ごとのニーズをよりよくサポートし、誰も取り残されないようにするための道筋を示しています。

2022年5月23日

WHO Director-General's opening remarks at the 36th meeting of the Programme, Budget and Administration Committee of the Executive Board—18 May 2022

Good morning and welcome to the 36th Session of PBAC

As you have a full agenda ahead of you, let me touch briefly upon three of the major issues you are considering: the programme budget; sustainable financing; and human resources, including our work on prevention and response to sexual exploitation, abuse and harassment.

第 36 回執行理事会プログラム · 予算 · 管理委員会における WHO 事務 局長開会の辞

第36回執行理事会プログラム・予算・管理委員会でのテドロス事務局長の挨拶 (要旨) は、以下の通りです。

- 2022 2023 予算は 14 % 増額を提案する
- 持続可能な資金調達に関する加盟国ワーキンググループが、2028 2029年の 2 年間 (遅くとも 2030 31年) までに加盟国分担金を基幹予算の 50% に引き上げるという勧告で合意したことは、WHOの財政にとって歴史的な出来事である。
- WHO 事務局は、ガバナンス、透明性、説明責任、効率性、コンプライアンスをさらに強化する
- 第 13 次一般作業計画 (GPW 13) に対する進捗状況を示す 2020 21 年の 2 年間の新しい成果報告書を発表した
- 説明責任に対する WHO のコミットメントは、加盟国やパートナーとの信頼関係を築くことであり、ひいては WHO の持続可能な資金調達と成功に向けた前進を支援するものという認識
- WHO に 1 ドル投資するごとに、世界に少なくとも 35 米ドルの経済的リターンを生み出す という試算

2022年5月23日

WHO Director-General announces Global Health Leaders Awards

The WHO Director-General Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus has announced six awards today to recognize outstanding contributions to advancing global health, demonstrated leadership and commitment to regional health issues. Dr Tedros himself decides on the awardees for the World Health Organization Director-General's Global Health Leaders Awards.

WHO 事務局長: グローバルヘルス・ リーダー賞を発表

テドロス事務局長は、グローバルヘルス推進への顕著な貢献、リーダーシップの発揮、地域の健康問題への取り組みなどを称える 6 つの賞を発表しました。 WHO 事務局長賞の受賞者は、テドロス博士自らが決定します。

2019 年に創設された同賞の授賞式は、第 75 回世界保健総会のハイレベルな開会セッションのライブストリーミングの一部として行われ、日本からは笹川陽平 WHO ハンセン病制圧大使が受賞しました。

他の受賞者は次の通り。

- Dr Paul Farmer; Partners in Health の共同創設者(2月にルアンダで死去)
- Dr Ahmed Hankir ; 精神科医、アンチスティグマ・プログラム「The Wounded Healer」の 著者
- Ms Ludmila Sofia Oliveira Varela ; Cabo Verde の青少年スポーツ支援者
- アフガニスタンのポリオ活動家
- ASHA (認定ソーシャル・ヘルス・アクティビスト・ワーカー); インドに 100 万人以上いる 女性ボランティアで、農村部や貧困層のプライマリヘルスケアを支援

2022年5月23日

<u>Multi-country monkeypox outbreak in non-endemic countries</u>

Since 13 May 2022, cases of monkeypox have been reported to WHO from 12 Member States that are not endemic for monkeypox virus, across three WHO regions. Epidemiological investigations are ongoing, however, reported cases thus far have no established travel links to endemic areas. Based on currently available information, cases have mainly but not exclusively been identified amongst men who have sex with men (MSM) seeking care in primary care and sexual health clinics.

サル痘、欧米や中東で発生

2022 年 5月 13 日以降、サル痘ウイルスの流行地でない 12 の加盟国から、92 人のサル痘の患者が WHO に報告されています。

サル痘はウイルス性人獣共通感染症 (動物からヒトに感染するウイルス) であり、臨床的には重症化しないが、かつての天然痘患者に見られた症状に非常によく似ており、西アフリカ・クレードとコ

ンゴ盆地 (中央アフリカ)・クレードの 2 つが確認されています。

サル痘という名前は、1958年にデンマークの研究所でサルにこのウイルスが最初に発見されたことに由来します。 1970年にコンゴ民主共和国の小児で確認されたのがヒトでの最初の症例で、ウイルスは、病変部、体液、呼吸器飛沫、寝具などの汚染物との密接な接触により、人から人へ感染します。

これまでのところ、報告された症例は、流行地域への旅行との関連は確認されていません。 現在入手可能な情報によれば、症例の多くは、プライマリーケアやセクシャル・ ヘルス・ クリニックで治療を受けている男性と性交渉を持つ男性 (MSM) の間で確認されていますが、それだけに限定されたものではありません。 状況は変化しており、WHO は、非伝染国でのサーベイランスが拡大するにつれて、より多くのサル痘の症例が確認される可能性があるとしています。

緊急の対策は、サル痘感染のリスクが最も高いと思われる人々に正確な情報を伝え、さらなる拡大を阻止することに重点を置くことです。 WHO はまた、最前線の医療従事者や清掃員などリスクのあるその他の医療従事者を保護するためのガイダンスを提供するよう努めています。 WHO は今後、より専門的な勧告を提供する予定です。

2022年5月23日

COVAX calls for urgent action to close vaccine equity gap

- COVAX has access to enough COVID-19 vaccines to help protect 70% of the population in 91 lower income countries.
- · Demand and uptake are low, with low-income countries remaining furthest behind.
- To close the global vaccine equity gap, COVAX calls on countries to set ambitious targets for implementation and on all partners to ensure countries have the resources needed to accelerate and expand national strategies.

COVAX: ワクチンの公平性のギャップを解消するための緊急行動を呼びかけ

COVID-19 ワクチンの初回投与から約 18 カ月が経過し、驚くべき進展がありました。 低所得国が数十億本の COVID-19 ワクチンを投与し、スピード、規模、対象人口統計の点で前例のない歴史的世界展開が行われたのです。 しかし、このような進展や世界的な供給制約の緩和にもかかわらず、低所得国と高所得国の間の不公平が人命を奪い続け、潜在的により危険な新型ウイルスの出現による脅威を増大させ、パンデミックを長引かせる原因となっています。

高所得国では 80 % が接種を受けているのに対して、低所得国では僅か 16 % の人たちがたった 1 回のワクチン接種を受けているに過ぎません。 低所得国では、医療従事者、高齢者、基礎疾患を持つ人など、社会的に最もリスクの高い人々の多くが無防備な状態にあり、裕福な国では若くて健康な成人がブースター接種を受けているのです。

世界は、この公平性のギャップを埋めるために緊急に行動しなければなりません。 COVAX は、91 の低所得国の人口の 70 % を保護するのに十分な COVID-19 ワクチンへのアクセス権を保有しています。 世界のワクチン公平性のギャップを埋めるため、COVAX は各国に挑戦的な実施目標を設定するよう求めるとともに、すべてのパートナーに対し、国家戦略の加速と拡大に必要なリソースを確保するよう要請しています。

(備考) COVAX: WHO が主導して 2020 年に発足した新型コロナウイルスワクチンを共同購入し途上国などに分配する国際的な枠組み

2022年5月24日

World Health Statistics

WHO's World health statistics report 2021 presents the latest data for more than 50 health-related indicators for the Sustainable Development Goals and WHO's "Triple Billion" targets. It finds an overall increase in global life expectancy and healthy life expectancy at birth as a result of improvements in several communicable diseases, maternal, perinatal and nutritional conditions, noncommunicable diseases, injuries and their underlying determinants. Persisting inequalities also continue to impact population health in most, if not all, aspects. Despite the overall improvement in service coverage, between and within countries disadvantaged populations still have lower access to care and are at greater risk of facing catastrophic costs.

世界保健統計 2022

WHO の世界保健統計 2022 には、超過死亡率の影響を含む過去 2 年間のパンデミックの疫学的な 進展の分析が、世界中の保健サービスの中断の概要とともに記載されています。

また、持続可能な開発目標や WHO の「トリプル ・ ビリオン」目標のための 50 以上の健康関連指標の最新データを示し、パンデミック初年度の疾病負担とサービス提供の両方に関する国レベルの包括的な統計が掲載されています。

母子死亡率や非感染性疾患による早期死亡率が低下した結果、過去 20 年間で平均寿命と健康寿命が全体的に伸びており、これらはいずれも世界の健康にプラスの影響を及ぼしていることが示されています。

しかし、GPW13 (第 13 次総合事業計画) のトリプル・ビリオンの目標や、健康に関連する持続可能な開発目標のほとんどの進捗は大きく後退していることが示されています。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の 2 つの主要な指標、すなわち、人々が必要不可欠な保健サービスをどの程度利用できるか、そして、それらのサービスを自費で受けた結果、どの程度経済的困難に直面しているかについてのデータも含まれており、この破局的経済支出によって、WHO は誰が取り残されているのか、そして各国が最大の健康増進のために最善の投資を行うことができる場所を示すために、各国が保健データと情報システムを改善するのを支援することに引き続き尽力しています。

2022年5月24日

2022 Progress report on the Global Action Plan for Healthy Lives and Well-being for All

SDG3 GAP has helped strengthen collaboration on primary health care and other areas in more

than 50 countries. But to truly transform how we jointly support countries to get back on track for the SDG health targets will require strong incentives for collaboration.

すべての人のための健康な生活とウエルビーイングのための世界行動計画 に関する進捗報告書 2022

第 3 回目となる本年次報告書では、SDG3 GAP において多国間システムにおける健康に関する協力のための改善プラットフォームを構築することにより、パンデミック対応と SDGs 達成のための長期的努力との間の相乗効果を如何程に促進しているかを示しています。

COVID-19 のパンデミックは、持続可能な開発目標における健康関連のターゲット (SDG3) に向けた国々の進捗を後退させました。 2030 年までに SDGs の保健分野の目標を達成するためには、現在の進捗はあるべき姿の 4 分の 1 程度でしかありません。 進捗を加速させる方法の 1 つは、より強力なコラボレーションです。 それ故に、SDG3 GAP は各国の復興を共同で支援する上で、これまでと同様に重要な役割を担っています。

SDG3 GAP は、50 カ国以上でプライマリーヘルスケアなどに関する協力関係の強化に貢献してきました。 各国のケーススタディでは、いかにしてコラボレーションが深まっているかを紹介しています。 しかし、各国が SDGs の保健目標に向けて軌道に乗るよう共同で支援していく方法を実際的に変革するには、共同支援協力に対する強力なインセンティブが必要です。

本報告書は、グローバルな保健構造におけるより緊密な協力を奨励するために、いかにインセンティブが不可欠であるかを示しています。

2022年5月25日

World Health Assembly agrees historic decision to sustainably finance WHO

Today, at the 75th World Health Assembly, Member States agreed to adopt a landmark decision to improve the World Health Organization's financing model.

The decision adopted, in full, the recommendations of a Sustainable Financing Working Group made up of WHO's Member States, which was set up in January 2021 and chaired by Björn Kümmel, from Germany.

世界保健総会: 資金調達モデルの改善に合意

世界保健総会において、加盟国は世界保健機関の資金調達モデルを改善するための画期的な「WHO の持続可能な資金調達ワーキンググループの勧告」の採択に合意しました。

2020 - 2021 年予算では、加盟国分担金は承認されたプログラム予算の 16 % に過ぎませんでした。 この主要な勧告では、加盟国は、遅くとも 2030 - 2031 年の予算サイクルまでに、WHO のコア予算の 50 % を占めるように加盟国分担金を段階的に増加させることを目標とし資金基盤を拡大するための補充メカニズムの実現可能性を探るなど、その他の提言も含まれています。

WHO の現在の資金調達モデルは、多くの専門家によって、その業務の完全性と独立性にリスクをもたらしていると指摘され、特定の業務分野に充当される割合が高い自発的な寄付金に過度に依存しているため、組織の優先順位とその資金調達能力との間に継続的な不整合を生じさせています。

分担金の漸増は WHO の 2024 - 25 年度予算から開始される予定で、承認された 2022 - 23 年度 基本予算の分担金より 20 % 増加することが提案されています。

2022年5月25日

World Health Assembly re-elects Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus to second term as WHO Director-General

WHO Member States today re-elected Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus to serve a second five-year term as Director-General of the world's leading public health agency. Dr Tedros was first elected in 2017.

世界保健総会: 事務局長にテドロス氏を再選

WHO 加盟国は 24 日、唯一の候補者であったテドロス · アダノム · ゲブレイエスス博士を 2 期目(5 年間)の事務局長に再選出しました。 新たな任期は 2022 年 8 月 16 日に正式に開始されます。 事務局長の再任は、世界保健総会の規則と手続きに従って 1 度だけ可能です。 テドロス博士は「加盟国から提供された、2 期目の WHO 事務局長を務める機会に身の引き締まる思いです。 しかし、この名誉には大きな責任が伴います。 私は、すべての国、世界中の同僚、そして大切なパートナーと協力し、健康を促進し、世界を安全に保ち、弱い人々に奉仕するという WHO の使命を確実に果たすことを約束します」と述べました。

2022年5月25日

Seventy-fifth World Health Assembly - Daily update: 24 May 2022

Delegates had previously approved a revised Programme Budget for WHO for the work of the biennium 2022-2023. The revision approved today reflects the rapidly changing health situation of the world due to the COVID-19 pandemic, amongst other issues. The revised Programme Budget incorporates learnings and recommendations from a number of internal and external reviews, notably on the Secretariat's response to COVID-19.

Delegates also agreed to extend the current Global Programme of Work to 2025, in light of the findings contained in WHO's Results Framework as well as the report presented by the Secretariat on operational efficiencies.

世界保健総会: 2022 - 23 予算の改訂を承認、総合事業計画 (GPW) を 2025 年まで延長

世界保健総会で、2022 - 2023年予算の改訂が承認されました。

承認された改訂版は、COVID-19 のパンデミックなどによる世界の健康状況の急速な変化を反映したもので、特に COVID-19 への事務局の対応について、多くの内部および外部のレビューから得られた学習と勧告が盛り込まれています。

2022 - 2023年の 2 年間の WHO 予算増加額は (先に提示された予算案より 13 % 増の) 6 億 440 万米ドルで、活動予算総額は (前期予算、37 億 6,900 万米ドルから) 49 億 6800 万米ドル となりました。

また、WHO の成果枠組みに含まれる所見と、事務局が提示した業務効率化に関する報告書を踏まえ、現行の総合事業計画 (GPW) を 2025 年まで延長することに合意しました。 この延長は、パンデミックに関連した保健サービスの混乱に対処し、パンデミックから回復し、トリプル 10 億と持続可能な開発目標の目標を達成するための努力を新たにするために WHO が各国の努力を支援することを目的とし、WHO の戦略的計画サイクルとより広い国連ファミリーの戦略的計画サイクルを一致させるものです。

2022年5月25日

WHO compilation of innovative concepts to communicate science during the COVID-19 pandemic

Throughout the pandemic, individuals and organizations designed innovative concepts to distill the latest science and make it meaningful and understandable to their respective communities. WHO has compiled case studies to showcase the creative yet rigorous approach of some of these initiatives..

WHO: COVID-19 パンデミック時の科学コミュニケーションに向けた WHO の革新的コンセプトの事例集

COVID-19 のパンデミックにより、科学的事実や知見をさまざまな読者にタイムリーにわかりやすく 伝えることの重要性が強調されました。 パンデミックの進行に伴いエビデンスが徐々に変化し、公 衆衛生上の推奨事項が変更される結果となりました。

このような不確実性の高い時代において、人々は自分自身や身近な人をどのように守るのが最善なのか、答えを必要としています。 パンデミックの間、個人や組織は最新の科学的事実を選択し、それをそれぞれのコミュニティにとって意味深く理解しやすいものにするために、革新的なコンセプトを考案しました。

WHO は、世界各地の科学コミュニケーション・イニシアチブの、創造的かつ正しいアプローチを紹介するケーススタディをまとめました。公募に応じた 78 件の事例が収集され、すべての事例がWHO 科学翻訳チームの 2 人のメンバーによって審査され、(i) 科学的正確さ、(ii) 革新性、(iii) ジェンダー、平等、人権の側面への配慮、(iv) その影響の評価 に関して分析されました。

事例集には、医療従事者、メディア関係者、研究者、高齢者や児童・青少年を含む一般市民向けの取り組みなど、最も評価の高い 20 の優れた実践例が紹介されています。

2022年5月30日

Seventy-fifth World Health Assembly – Daily update: 26 May 2022

Resolution on "Health emergency in Ukraine"

In a vote (with 88 yes, 12 no, 53 abstentions), delegates at the World Health Assembly agreed a resolution on the "Health emergency in Ukraine and refugee receiving and hosting countries, stemming from the Russian Federation's aggression."

Extension of the Independent Oversight and Advisory Committee for the WHO Health Emergencies Programme

The Director-General renewed the mandate of the Independent Oversight and Advisory Committee (IOAC) for the World Health Organization for two years. The Committee was created in 2016 to provide oversight and monitoring of the development and performance of the WHO Emergencies Programme, and to guide the Programme's activities. It reports annually to the Health Assembly.

世界保健総会 (5月26日): ウクライナの健康上の緊急事態 に関する決議採択

- 1) 世界保健総会は、投票(賛成 88、反対 12、棄権 53) で、「ロシア連邦の侵略に起因する、ウクライナおよび難民受入国の健康上の緊急事態」に関する決議に合意しました。 この決議では他の (決議) 発出においても、「ウクライナおよび周辺地域、そしてそれ以外の地域における直接的 ・間接的な健康への影響に注意を喚起し、WHO の監視システムによって記録された医療への攻撃を非難し、ロシア連邦に病院やその他の医療施設に対する攻撃を直ちに停止すること」を要請しています。
- 2) 事務局長は、健康危機プログラム独立監視諮問委員会 (IOAC) の任期を 2 年間更新しました。 新しい議長には、セント・ジョセフ大学 (ベイルート、レバノン) の公衆衛生博士・研究プログラムディレクターである Walid Ammar 氏を迎えました。

2022年5月30日

<u>Seventy-fifth World Health Assembly – Daily update: 27 May 2022</u>

Record number of decisions for noncommunicable diseases and mental health

Delegates at the World Health Assembly approved a record number of recommendations relating to noncommunicable diseases (NCDs) such as cancers, diabetes, heart and lung diseases, as well as to mental health, and their risk factors.

世界保健総会 (5月27日): 非感染性疾患や糖尿病に関する勧告等を承認

5月27日の決議等は以下の通りです。

- 1) がん、糖尿病、心臓病、肺疾患などの非感染性疾患 (NCDs) 、およびメンタルヘルスとその危険 因子に関する過去最多の勧告が承認されました。
- 2) 人道的緊急事態における NCDs の予防と管理のための政策 (弾力的な保健システム、保健サービスとインフラを含む) の立案と実施を強化する方法についての提言に合意しました。
- 3) 糖尿病に取り組むための世界的な目標を設定しました。 この目標は、各国の糖尿病への対応を強

- 化・監視するための新しい包括的な勧告の一部です。 糖尿病は現在、世界の死因の上位 10 位以内にランクインしています。
- 4) 口腔保健に関する画期的な世界戦略の策定を合意。 この戦略は 2023 年の世界保健総会で議論される予定です。
- 5) 肥満の予防と管理のための新たな勧告がなされました。 2025 年までに 5 歳以下の子どもや青年、成人の肥満の増加を止め、2030 年までにあらゆる形態の栄養不良をなくすために、ライフコースにおける肥満の予防と管理に関する新しい勧告と一連の関連する目標に合意しました。
- 6) てんかんおよびその他の神経系疾患 (脳卒中、片頭痛、認知症、髄膜炎を含む) に関する新しい セクター間グローバル・アクション・プランに合意しました。
- 7) アルコールの有害な使用を減らすための世界戦略を効果的に実施するための行動計画 (2022 2030 年) に合意しました。
- 8) 医療 · 介護従事者を支援する「Working for Health Action Plan (2022 2030) 」を採択することに合意しました。
- 9)「WHO 食品安全のための世界戦略 2022 2030」を採択することに合意しました。
- 10) 事務局長に対して、新しい「平和のための世界保健イニシアティブ」に関する WHO の報告書の実施方法について、加盟国およびオブザーバーと協議するよう要請しました。 2023 年の世界保健総会で審議に付される予定です。
- 11) 国際保健規則 (IHR) を改正し、今後の改正の発効時期を 24 カ月後から 12 カ月後に短縮することに合意すると同時に、IHR の将来の改正に対処するための包括的なプロセスも、合意に至りました。

2022年5月30日

Seventy-fifth World Health Assembly – Daily update: 28 May 2022

Standardization of medical devices nomenclature

On the final day of the 75th World Health Assembly, Member States requested the Secretariat to continue the integration of information related to terms, codes and definitions of existing systems for naming medical devices, and make them available to Member States, through its Medical Devices Information System (MEDEVIS). They asked the Secretariat to link MEDEVIS to other WHO electronic platforms, such as the International Classification of Diseases (ICD-11).

世界保健総会 (5月28日): 「感染予防と制御に関する世界戦略」等を承認

- 5月28日の決議等は以下の通りです。
- 1) 加盟国は事務局に対し、医療機器情報システム (MEDEVIS) を通じて、医療機器の命名に関する

既存のシステムの用語、コード、定義に関する情報の統合を継続し、加盟国がそれらを利用できるようにすることを要請しました。 また、MEDEVIS を国際疾病分類 (ICD-11) など他の WHO 電子プラットフォームとリンクさせるよう要請しました。

- 2)「感染予防と制御に関する世界戦略」を承認しました。 この戦略は、IPC (Infection Prevention and Control) を感染症および保健緊急事態への準備と対応の中心に位置づけ、医療関連感染 (HAI) と抗菌薬耐性 (AMR) の黙々とのしかかる負担に対処するための鍵とすることを目的としています。
- 3) 加盟国は 2022 年から 2030 年までの HIV、ウイルス性肝炎、性感染症に関する新しいグローバル・ヘルス ・セクター戦略を高く評価しました。

2022年5月30日

Behavioural sciences for better health initiative

WHO Director-General report to WHA75 on the *Behavioural sciences for better health initiative* summarizes recent efforts to increase the use of behavioural science at WHO. The report provides an overview and update on some of the work being performed by the organization in this area and outlines the way forward for WHO and Member States to create synergies and finding ways to better integrate behavioural sciences into their work.

より良い健康のための行動科学イニシアティブ

第 75 回世界保健総会において、事務局長から「よりよい健康のための行動科学イニシアチブ (新規構想) 」が報告されました。

この報告は、WHO における行動科学の利用を増大させるための取り組みをまとめたものです。 この分野で WHO が行っているいくつかの業務の概要と最新情報を提供し、今後行動科学をより適切に業務に統合して、WHO と加盟国がシナジー (相乗効果) を生み出す方法を概説しています。 行動科学の理論と介入は、過去 10 年間でますます公共政策に利用されるようになってきました。 WHO 設立 75 周年が近づき、世界がこの 100 年で最も深刻なパンデミックから抜け出し、行動科学の分野が成熟して重要なデータや知見が得られるなか、国連と加盟国は、個人、コミュニティ、国、地域、世界レベルでインパクトを与えるための重要なツールとしてこの分野をさらに強化すべき時が来ています。

注)本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

https://www.who.int/news-room/releases

https://www.who.int/news-room/statements

https://www.who.int/news-room/notes